天神祭りの概要

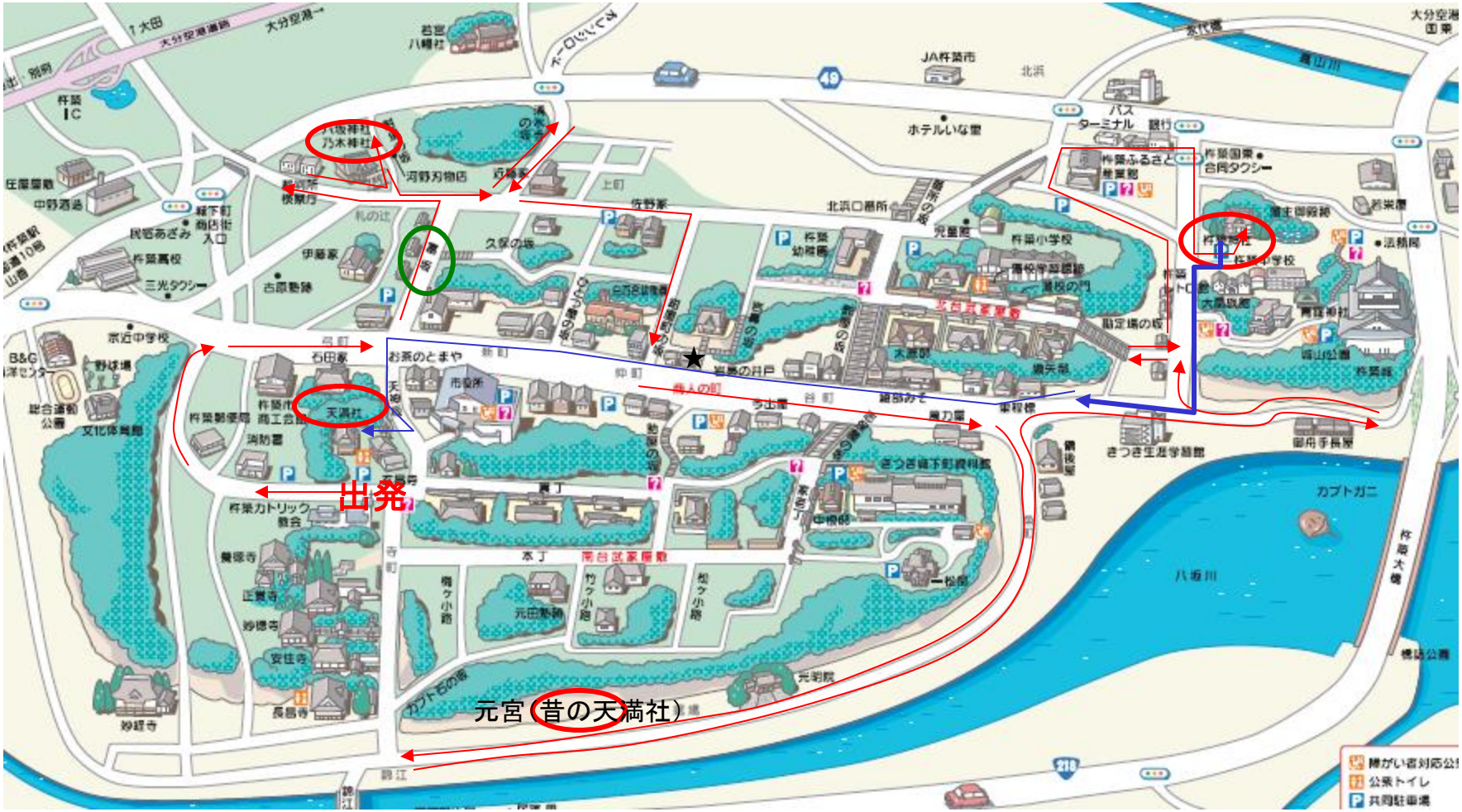
杵築飛松天満宮は正保2年（西暦1645年）松平英親公が、こられて以降（当時は木付藩　後1712年に杵築藩と改名）明治維新を経て現在まで様々に変遷しつつも脈々と受け継がれてきた伝統あるお祭りです。

7月24日は宵宮で　お神楽や町筋では段尻が繰り出し、　富坂にて芝居を奉納します（但し　試運転として天満社そばまで曳いてくる町内もある）

7月25日は毛槍　御神輿　山車などが天満社を出発　夕方までに杵築神社入りを目指す（お下り）

夜20時　杵築神社を出発し天満社へ戻る（お上り）但し、天満社まで戻るのは毛槍と御神輿

山車は自分の町内に戻るのだが、毛槍や御輿もお酒と疲労でゆっくり進む。その間　**山車がぶつけ合ったりして観衆をわかせている。**



天神祭り２５日御神幸の様子

宝永4年（1707年）から

毛槍　（魚町）
毛槍を持つ人のはっぴは、祭りが始まって以降
取り替えていないらしいとの事（新調していないと思われる）

鉄砲隊　（六軒町）

獅子舞　（弓町）

大御輿復活の火付け役はこうせつ

御所車　（仲町）

御所車　（本町）

花山　（広小路区）

松山　（西新町）

飾山　（錦城区）

仲町組　御所車

文政3年（1820年）から参加
当初からの原型をとどめ今現在に至る。
我が町の誇りの山車です
牛に曳かせる予定だったがお殿様の許可が降りず人手でかつぐようになっています。
山車の行列中では先頭にあり、巡行の際時折お年寄りからは拝んで頂けたり、お賽銭を頂いたりと格式高い存在です

仲町の台帳は明治10年から記録が残っています。内容は役割分担が主で、改修やトラブルなどの記録は少ない。

本町組　御所車

＜本町組＞
祭り当初から六軒町と合同で鉄砲隊として参加しており、その後昭和8年（1933年）御所車を作成。しかし、昭和43年に他町とのぶつけ合いにて大破しその後欠場、平成元年に雄志一同で寄付を集め復元し、現在に至る。（資料館展示している）

大祭である25日の夜には花山や、飾り山とぶつけたりして祭りを盛り上げている。

広小路組　花山

明治8年（1875年）から参加
昭和63年の大改造にて現在に至る
（牛の張り物のみ受け継ぎ
　その他は新調）

←これが先代で、すでに
自動車のフレームに乗って
おり屋根はビニールシート
先々代の写真は無し。

上町組　梅山（山鉾）　天保8年1837年から参加

松山は、木製のタイヤとなっていて床が無く、柱全てが
組立式となっている。囃子方は内部で徒歩で笛を演奏、方向転換は
四隅にあるロープにて行きたい方向へ曳いて方向を変える。京都祇園の山車
を思わせる。20年以上欠場となっている。

写真は昭和60年前後と思われる
形は当初から変更ないと思われます

西新町組　松山（山鉾）

1708年以降（詳細不明）
から参加　昭和50年代後半？
に自動車フレームへ乗せ変え
現在に至る

杵築神社へは入らず杵築バスターミナルを
折り返しとして自町へ戻ります（お上りには参加
しません　）

錦城組　飾り山

昭和23年（1948年）から参加

菅原道真を飾りつけた優雅な様で当時では他町の物より大型で観衆も目を曳く豪華なつくりが今も健在です。

この山車の登場により以後、御神幸の行列もバスターミナル方面に回るようになり段じりも曳きいれられました。

錦町組　たいこ山

昭和24年より参加

たいこ山

昭和40年代後半で
他町との喧嘩で壊れ燃やして
消滅しています。

天神祭り　段尻

段尻は24日の宵宮で天満社へ芝居を奉納（神納）を行い
25日の大祭では　我々とは別行動で各町内で芝居を
打ちながら移動、杵築神社にて御神幸の我々と合流
杵築神社への芝居奉納と毛槍、御神輿への芝居奉納で
修了となりその後は各自町内へ戻る

谷町組

享保12年（1727年）

富新組

正徳5年（1715年）

歴史は古く舞台のない段じりが始めの姿のようです。
富坂町、新町の二つの町が合同となり今現在に
至っています。御神輿は谷町同様

天神祭り　見どころ　1

２４日は宵宮で段尻のみ。富坂で行われる神納（芝居の奉納）時すでに富坂の中腹でまっている冨新組に向かって、十字路を直角にまがり坂をかけあがる谷町組の姿が勇壮である

富坂の中腹で谷町組を待つ富新組

十字路を直角に曲がりいざ富坂へ！

必ずもみ合いになる

仲裁完了したところで真向かいの天満社へ踊りを奉納後、谷町組は自分の町内へ帰ります

天神祭り　見どころ　２

２５日が大祭で天満社から杵築神社までがお下り、その逆がお上り となりますがお下りは坂道が多く大変。。夜はぶつけ合いで大盛り上がり

天満社へ集合時の天神坂を上ります（南台側）

天満社とは逆の北側の富坂をのぼり直角に曲がってもまだまだ坂が続きます

上りがあれば下りもあり

夜は本町の御所車、花山、飾り山の３台がぶつけ合って観衆を盛り上げています

昭和20年代

昔町すじは家や商店が隙間
なく並び道幅もせまく、離合の
際もめることも多かったらしい。
各町内の山車も大きく見えた

囃子は雅楽（越天楽と
抜頭ですが、昔は7人
中に乗って、囃子をやっていたそうです
が、今では考えられません
みんな小柄だったのでしょうか。

城下町商店街もかなり変貌

←昔は商店が軒を連ねていました

同じ場所の向かい側から取っていますが現在では街路拡幅工事が行われ道幅が倍以上になっていますが、商店街は閑散としています。